

東 雲

第16号

平成14年(2002) 9 月



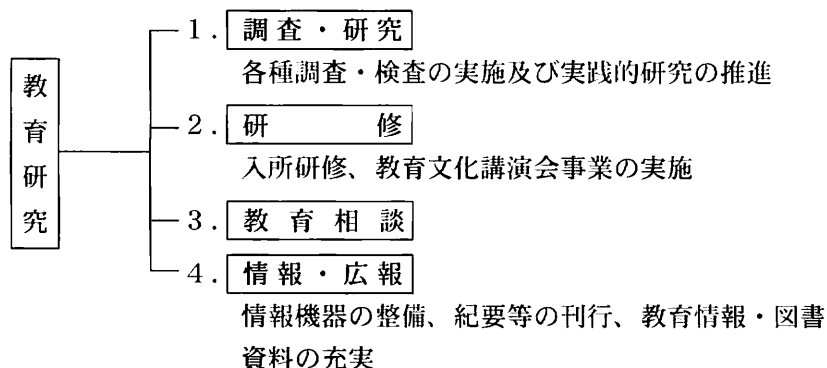
南部広域行政組合
島尻教育研究所

●設置の目的

教育に関する調査・研究及び教育関係職員の研修を行い、資料提供並びに教育相談等の事業を通して島尻地区に於ける教育研究の中核的な存在とする。

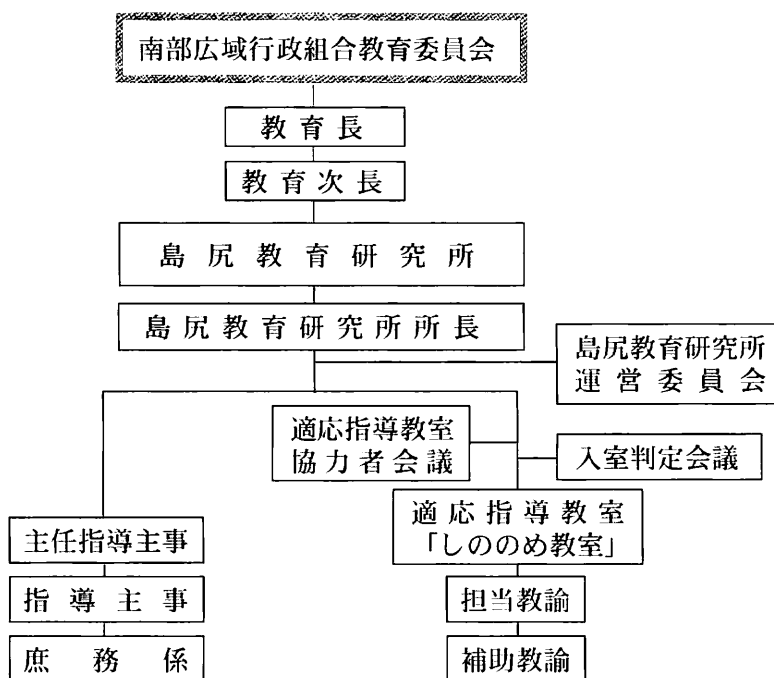
(島尻教育研究所設置条例第1号)

●事業の四本柱



●組織・機構

1. 組織・機構



2. 所 員

職 名	氏 名	しのめ教室	
所 長	當 山 徳 有	職 名	氏 名
主任指導主事	上 原 幸 得	指 導 教 諭	城 田 由 勝
指 導 主 事	甲 斐 英 児	補 助 教 諭	金 城 留 美 子
庶 務 係	宮 里 紀 子		

目 次

随 想 「夏季休業と教職員の研修」	島尻教育研究所所長 當 山 徳 有	1
随 想 「教育雑感」	運営委員会副委員長 久保田 暁	3
I 平成14年度事業計画		4
II 指導講師・運営委員一覧		5
III 教育研究員研究テーマ一覧		6
IV 平成14・15年度研究協力員要項		7
V 平成14年度研修事業		
1 所内研修		8
2 所外研修		9
3 短期研修		
① 幼稚園教育短期研修講座		10
② 幼・小・中情報教育利用講座		11
4 幼稚園教頭・主任等宿泊研修		12
VI 実践事例紹介		
1 幼稚園 「ほんものの与那原大綱曳だ！」		13
2 小学校 「Let's Try 英語活動」		14
3 中学校 「一人一人に応じた学習意欲の高まりを！」		15
VII しののめ教室から		16
「しののめ教室ってどんなところ？」	しののめ教室担当者 城 田 由 勝	
VIII 研修を終えて	前期教育研究員	17
「緊張の中での学び」	与那原町立与那原東幼稚園教諭 嘉手苺 すみ江	
「獅子の会パワーアップの旅」	大里村立大里南幼稚園教頭 大 城 美恵子	
「乗り越えて もうひとつ 乗り越えて・・・」	糸満市立米須小学校教諭 砂 川 充	
「心に残る講話の数々」	東風平町立東風平小学校教諭 金 城 博 美	
「いくつもの山を乗り越えてきた研修生活」	糸満市立西崎小学校教諭 渡名喜 留美子	
「充実した実り多き研修」	糸満市立西崎中学校教諭 名嘉眞 朝 靖	
「乗り越えて」	糸満市立光洋小学校教諭 前 新 マチ子	
島尻教育研究所 逍遙歌		24



夏季休業と教職員の研修

所長 當 山 徳 有

世の中には、先生と名の付く人は何万という。ところが、自分が選ぶことが出来ない先生は、唯一学校の先生だけである。

このことからしても、教師に当たり外れがあってはならない。教師は常に研鑽を積み教育専門職としての識見と力量を高め父母の信託に応えなければならない。

ケルシェン・スタイナーの教師論によれば、教師の基礎・基本は「愛・知識・技能」の三つに集約されると言われている。つまり、人間性＋専門性である。

「教育は人なり」とも言われているが、その教師の人間性、専門性を高めるのは、よき先輩やよき同僚教師との出会いであり、また、学校内外に於ける研修が最も大切である。研修は、教師の糧とも言われ、日進月歩の社会にあっては不可欠のものである。ところが、学校週5日制の完全実施より、学校は益々多忙になり教師の資質向上の為の時間や場の設定がむつかしくなってきたと言われている。

さきごろ、文部科学省から、通知「夏季休業期間等における公立学校の教職員の勤務管理について」（平成14年7月4日に付け、初等中等教育企画課長）が出された。

この通知は、①長期休業中は、研修、教材研究、授業研究などにより、教職員の資質の向上や教育活動の充実に努めること、②勤務場所を離れて行う研修は、校長の権限と責任において適切に判断して行うこと、などが述べられている。そのことから、これまでの自宅研修から、常時出勤へと夏季休業中の教職員の勤務の態様が変わってくるものと思われる。

日頃、多忙な学校現場にあっては、研修の時間確保がなかなか難しい。そこで、夏期休業期間は、教師がゆとりをもって研究と修養の場として活用できる有意義な機会ととらえ、学校運営に携わってきた者の一人として、教師の資質向上の立場から提言をしたい。

現場校長の頃、歴任した3校とも、文部省指定の研究校であった。研究をすすめていく上で、いろいろな取り組みが行われたが、テーマに関する校内研修での理論研修や授業研究会は勿論だが、その他で大きな成果に結びついたことに、先進校の視察研修があった。

新設3年目にして、研究成果をあげている研究校を訪問したが、授業改善の工夫として、TTが取り入れられ、個々の児童に対応する為のいろいろな工夫がなされていた。また、教育環境づくりとして、立体掲示構想や学校博物館構想等で職員が一丸となって取り組んでいる姿に感動した。

学校視察研修を終えて職員に火がついた。各学校における研究の取り組みや掲示教育等が盛んになり、学校に活気が充ちてきた。低・中・高学年の玄関ロビーや学年掲示板には、職員の工夫をいかした掲示物が常時見られる様になった。また、子どもたちの遊び場には日本地図が描かれ、1m²、1aの実際の大きさの図形も表示された。学校は益々清潔できれいになり、学びの場にふさわしい環境になってきたのである。

夏季休業中における学校視察は、以前なら職員の対応がむつかしいと言うことで断わられるところだが、常時出勤となれば学校訪問も可能だと思われる。職員に、自分の学校を見直させてやる気を喚起させる意味から、特色ある教育活動に取り組んでいる学校の視察研修を是非推めたい。

また、夏季休業期間中に実施を推めたいことに職員の地域学習がある。生活科の研究校としてスタートしたものの、地域に生活科の教材が乏しいとの教師の声が聞かれた。そこで、夏季休業を利用して、専門家を招聘して職員の地域散策を実施すると共に、役場職員を招いての学習会を行い、地域の学習素材の掘り起しに努めた。その結果、自然・歴史・文化・産業とも、教材として活用出来るものが豊富にあることに驚いたものである。5年生は地域学習の発展として、地域の芸能調べをして、獅子舞やティンペー、古式エイサー、みるく節等学習発表会で発表し、大成功をおさめた。獅子舞の獅子も手づくりで、三味線やドラ、笛なども自分たちでやりとげた。指導者は勿論地域の方々である。この様な子どもたちを育てるには、教師の地域理解が大切であり、そのことによる教育効果も大きいのである。

もう一つは、研修時間がたっぷり取れることや、外部講師の活用が容易であることから、夏季休業中における職員の宿泊研修を推めたい。研究の幅や深まりが期待出来るだけでなく、集団維持機能を高める意味での懇親の場としても意義がある。

杉山正一は、学校の三つの機能として「学校は道場であり、公会堂であり、サロンである。」と言っている。教職員にとって夏季休業期間は、己を鍛える場、いろいろと学び、知識と教養を身につける場、仲間と親しく語り合える憩いの場でありたい。

よい学校にはよい教師がいると言われている。よい教師は研修によって育っていく。研修を大事にしたいものである。



教 育 雑 感

島尻地区中学校長会会長 久保田 暁
(伊良波中学校校長)

新学習指導要領が本格的にスタートした。行政、学校、地域が教育改革に動き出したのである。いろいろな体験学習を取り入れたり、ITを教育手段にしたり、地域人材の活用を積極的に行うなど、創意工夫を生かした特色ある学校づくりに、各学校の多様な実践報告が届くようになり、活力あふれる様子が見えてくる。今改訂の中で、開かれた学校づくりはこれまでの学校の閉鎖性、画一性を打破し、教育を共に担うということで大きな意義がある。学校を開くためには、教職員が互いに、地域へ、父母へ、内に外に、心をしっかり開き、信頼感を築くことが大切である。そのためには、学校は教育活動が見える形にし、評価してもらう勇氣も必要となる。学校の変容、教育活動の活性化が徐々に見えてきたのは幸いである。さらに今教育改革においては、地域の皆さんの教育に寄せる関心や思いの度合いが高く、一喜一憂する場面も多いが、不安も隠せない。教育改革のあるべき本質が焦点ぼけに陥らないかということである。

学校教育のねらいとするところは生涯学習の礎を築くことであり、子どもたちが将来、複雑多様化した社会で主体的に生きる力を培うことである。「自ら学び生きる力」をどう捉え、実践でどう培っていくかが、今後の教育の大きな課題となろう。

自ら学ぶ力とはどのような力であろうか。これは自らの意思であらゆる情報、環境や経験から何かを学び取る能力のことである。誰の助けも借りずに行う場合もある。また、他者の助けを借りる場合もあるし、他者と一緒に学ぶ場合もある。

だから、自ら学ぶとは「自習」「独学」と同一ではない。教師の指導で黙々と学習しているだけではいけない。いろいろな体験を通して情報を有効に処理し、多くの人との関わりの中で問題をよりよく解決することができることでなければならない。

しかし、自ら学ぶ能力を身につけた者がすべて真に生きる力を身につけたとは言い難いのである。それは環境や体験した内容によっては、人としての道に反することも学びの力となるからである。「自ら学び生きる力」とは、人としての生きる善や悪のような価値観も含んだものとしてとらえる必要がある。人として価値ある生き方のできる者を育成することが重要である。

これからの教育活動は教科・領域等それぞれ独立した学習形態のみでは通用しない。知の総合化と言われる所以である。学習のネットワーク化をどう進めるかが重要となろう。これまでの学校は、教師の教授活動に意を注ぐのが主であったが、「生きる力」という観点から学びを捉える転換が求められており、学習者としての子どもを主体とした学習活動をどう展開するかが大切となる。いろいろな情報や媒体から課題を解決しようとする生徒をどう支援するかが大きく問われよう。教師主導の教育のあり方に固執していると、教育改革の嵐にあり、漂流してしまいはしないだろうか。教科、特別活動、道徳、総合的学習等、諸教育活動がグローバルに互いにリンクしあいながら、進めていくことで学校教育のネットワークができ、子ども一人一人へのきめ細かな学習を保障しうであろう。これがひいては、自ら学び生きる力の育成へと繋がり、生涯学習の礎へ導かれるものと思料される。翻って、子どもたちに「自ら学び生きる力」を培うことは、教育者自らが積極的に学び、生きる力を備えていることで可能となることも忘れてはならない。今、教育改革は緒に就いたばかりである。子どもが変わるには、まず、教師が変わらなければならない。東雲の光り輝けるように！

I 平成14年度事業計画

期月	事業予定		
	主事業	研究員	運営委員会・指導講師連絡会等
前期	4 表敬訪問(教育庁) 講話(所長①, 主事①) 沖教連・九教連・全教連会費交付 全県指導主事会(主事参加) 表敬訪問(管理者等)	平成14年度前期研究員入所式 (幼稚園2人、小学5人、 中学校1人) 研究計画検討会 所外研修(1)所内研修	入所式出席 (運営委員長・指導講師) 指導講師連絡会委嘱状交付式 指導講師による指導(1) 研究協力員会(1)
	5 講話(主事②) 島尻地区指導主事研修会	所外研修(2・3・4) 所内研修 県内講師講話、	指導講師による指導(2)
	6 講話(主事③) 沖教連盟研究会参加(所長、主事2名、 しのめ担当2名)	検証授業(各研究員) 所内研修	研究協力員会(2) 指導講師による指導(3) 指導講師検証授業へ出席
	7 講話(所長②、主事④) 全国教育研究所連盟特別研修(東京) 情報教育短期研修	検証授業、所外研修(5) 中間検討会 所内研修(ヒヤシ) 所内研修	指導講師による指導(4) 指導講師検証授業へ出席
	8 講話(主事⑤) 幼稚園教育短期研修 要項発送、研究報告書入稿	研究報告書検討会 研究のまとめ・原稿入稿 所外研修(6) 所内研修	指導講師による指導(5) 研究協力員会(3)
	9 講話(所長③主事⑥) 前期所報作成、印刷、発送 平成14年度前期研究報告書印刷発送 (幼・小・中教・教員会等) 平成15年度教育研究員募集	平成14年度前期研究員報告会 平成14年度前期修了式 平成14年度後期研究員オリエンテーション 所内研修	指導講師による指導(6) 運営委員会委嘱状交付式 指導講師連絡会(1) 研究報告会・修了式へ出席 (運営委員・指導講師)
後期	10 講話(所長①, 主事①) 全教連研究会参加 平成15年度教育研究員申込締切 平成15年度予算資料作成 幼稚園教頭・主任宿泊研修会	平成14年度後期入所式 (幼稚園2人、小学校3人、 中学校2人) 研究計画検討会 所外研修(1) 所内研修	入所式出席 (運営委員・指導講師) 指導講師連絡会 委嘱状交付式 指導講師による指導(1)
	11 講話(主事②) 沖縄県教育研究所連盟研究発表会	所外研修(2・3・4) 所内研修(5) 検証授業指導案検討会 検証授業	研究協力員会(4) 指導講師による指導(2) 指導講師検証授業へ出席
	12 講話(主事③) 平成15年度研究員決定通知発送 御用納め(年末大掃除)	検証授業指導案検討会 検証授業	研究協力員会(5) 指導講師による指導(3,4) 指導講師検証授業へ出席
	1 講話(所長②主事④) 年頭表敬(県教育庁) 県指導主事会 平成15年度事業計画作成	所内研修(総務会) 中間検討会 教育講演会 所内研修	研究協力員会(6)
	2 講話(主事⑤) 平成14年度後期所報作成印刷 研究報告書作成印刷	研究のまとめ原稿の入稿 研究報告書検討会 所外研修(6) 所内研修	指導講師による指導(5)
	3 講話(所長③主事⑥) 平成14年度後期報告書発送 (島尻管内、県内教育研究所、全国教育研究所向け) 平成14年度所報発送(管内外) 平成15年要覧作成印刷	平成14年度後期研究報告会 平成14年度後期教育研究修了式 平成15年度前期教育研究員オリエンテーション 所内研修	指導講師による指導(6) 指導講師連絡会(2) 運営委員会(2)

Ⅱ 運営委員・指導講師氏名一覧

1 島尻教育研究所運営委員一覧

役 職 等	氏 名	所 属 等
学識経験者代表	宮城 恒彦	元島尻教育研究所 所長
島尻地区校長会 中学校会長	久保田 暁	豊見城市立伊良波中学校 校長
島尻地区校長会 小学校会長	砂川 忠雄	糸満市立光洋小学校 校長
島尻地区小中学校 教頭会会長	金武 幸一	糸満市立西崎中学校 教頭
島尻地区小中学校 教頭会副会長	金城 昇	豊見城市立とよみ小学校 教頭
島尻地区公立幼稚園 教頭会会長	仲里 竹子	南風原町立津嘉山幼稚園 教頭
島尻市町村指導主事協議会 会長	渡名 喜庸清	南風原町教育委員会 指導主事

2 教育研究員指導講師一覧

【前期】

指導講師	教 科・領 域	所 属 等
又吉ノリ子	幼稚園教育	糸満市立真壁幼稚園 教頭
上原須美子	幼稚園教育	糸満市立糸西崎小学校 前教頭
上原弘子	小学校生活	南風原町立翔南小学校 前校長
亀川盛敏	小学校算数	東風平町教育委員会 指導主事
荷川取幸代	小学校学級経営	糸満市立糸満南小学校 教頭
竹本祐子	総合的な学習の時間	糸満市立兼城小学校 校長
徳門正芳	中学校数学	具志頭村教育委員会 指導主事

【後期】

指導講師	教 科・領 域	所 属 等
名 嘉 峰子	幼稚園教育	与那原町立与那原東幼稚園 教頭
金城 恵子	幼稚園教育	東風平町立白川幼稚園 教頭
大城早智子	小学校国語	糸満市立糸満小学校 校長
糸 数 洋	小学校算数	東風平町立東風平小学校 教頭
中村トシ子	小学校生活	糸満市立喜屋武小学校 校長
玉 寄 幸子	小学校教育相談	糸満市立潮平小学校 教頭
座嘉比幸枝	中学校国語	豊見城市立長嶺中学校 教頭
宮城 和文	中学校英語	島尻教育事務所 指導主事

Ⅲ 教育研究員の研究テーマ一覧

【前期】

教育研究員	所 属	教科・領域	研 究 テ ー マ
嘉手苺すみ江	与那原町立 与那原東幼稚園	幼稚園教育	伸び伸びと自己表現する援助の工夫 - 地域行事を生活に取り入れることを通して -
大城 美恵子	大里村立 大里南幼稚園	幼稚園教育	幼児の「しなやかな心と体」を育てるためのチーム保育の工夫 - 園内研修の充実を通して -
砂 川 充	糸満市立 米須小学校	算 数	基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫 - 少人数による個に応じた指導とワークシートの活用を通して -
前新 マチ子	糸満市立 光洋小学校	生 活	児童が生き生きと活動する生活科授業の創造 - 一人一人の思いや願いを生かした「地域探検活動」を通して -
金城 博美	東風平町立 東風平小学校	学級経営	一人一人のよさを認め合える人間関係を育てる学級経営 - 班活動を中心にした学級行事「お誕生会」への取り組みを通して -
渡名喜留美子	糸満市立 西崎小学校	総合的な学習	進んでコミュニケーションを楽しむ英語活動の試み - 学習材の作成と体験的な活動の工夫を通して -
名嘉真 朝靖	糸満市立 西崎中学校	数 学	生徒が意欲的に取り組む学習指導の工夫 - 個に応じた少人数指導を通して(1年正の数・負の数) -

【後 期】

教育研究員	所 属	教科・領域	予定研究テーマ
比嘉 由美子	糸満市立 西崎幼稚園	幼稚園教育	幼児一人一人を支える援助の在り方
赤嶺 律子	南風原町立 北丘幼稚園	幼稚園教育	心豊かな子どもを育てる保育をめざして
嶺井 順子	知念村立 知念小学校	国 語	読書意欲を高める指導の工夫 - 読書のアニメーションを通して -
新垣 典彦	糸満市立 糸満南小学校	算 数	数学的な考え方を生かす学習指導の工夫
仲村渠 ゆり子	豊見城市立 とよみ小学校	生 活	総合的な学習の時間へとつなげる生活科の単元開発の工夫
崎原 貴子	糸満市立 光洋小学校	教育相談	特別な援助や配慮を要する児童の理解 - 学習上のつまづきや行動上の問題を抱える子への対応 -
宮城 伸子	糸満市立 西崎中学校	国 語	(指定テーマ) 基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫
下地 早苗	糸満市立 糸満中学校	英 語	実践的コミュニケーションの基礎を養うための学指導の工夫

Ⅳ 平成14・15年度研究協力員要項

1 事業方針

- (1) 島尻管内の幼稚園、中学校の実践に役立つ資料を提供するために実践報告書を作成し関係機関に配布する。報告書の作成配布をもって発表に替える。
- (2) 「生きる力を育む保育の工夫」と「生きる力を育む教科指導の工夫」をテーマ設定の趣旨にして、それぞれのチームで研究テーマと仮説を設定し、指導講師と研究所の担当指導主事の下で研究を進める。
- (3) 初年度は、理論を中心に研究を進め、最終年度は検証保育や検証授業を含めたものとし、現場で活用できる形で報告書を作成する。

2 研究協力員の校種と教科等および協力員，指導講師名

〔幼稚園教育〕研究テーマ「生きる力を育む保育の工夫」

研究員氏名	所 属	指 導 講 師
赤嶺 優子	豊見城市立上田幼稚園	西崎幼稚園 前教頭 上原 須美子
長嶺 初美	糸満市立高嶺幼稚園	
山川 輝美	大里村立大里北幼稚園	

〔中学校数学〕研究テーマ「生きる力を育む教科指導の工夫」

研究員氏名	所 属	指 導 講 師
唐真 清	豊見城市立豊見城中学校	糸満市教委会指導主事 金城 光定
神里美智子	東風平町立東風平中学校	
系数 貴之	豊見城市立長嶺中学校	

3 研究日程

- (1) 研究協力員委嘱状交付式 4月19日（金）16:00～
- (2) 指導講師委嘱状交付式 5月20日（月）16:00～
- (3) 中間報告会 2月3日（月）15:00～

4 平成12・13年度の研究成果

実践事例集 第3集

研究テーマ「相手の立場や考えを尊重しながら言語で伝え合う能力の育成」

実践事例「伝え合う能力」を育てる授業の工夫

- (1) 事例1 「自分の思いを伝えよう」

南風原町立北丘小学校教諭 石川 なおみ

- (2) 事例2 「資料を使って伝えよう」

南風原町立北丘小学校教諭 系数 さゆり

- (3) 事例3 「こんなことしたいな」

具志頭村立新城小学校教諭 平田 勝典

平成14年3月発行

V 平成14年度研修事業

1 所内研修

【前期】

月	日	曜	講座の内容	担当者
4月	3	水	所長講話	當山所長
	3	水	長期研修の実施要領、服務について他	上 原
	4	木	研究計画検討会に向けて	上 原
	4	木	資料の検索について	甲 斐
	8	月	教育心理検査の実施方法、活用の仕方	野原清志先生
	12	木	教育次長講話	玉寄次長
	15	月	ニュージーランドの教育	甲 斐
5月	7	火	グループエンカウンター理論と実践	城 田
	14	火	定例講話	上 原
	27	月	情報機器の活用	甲 斐
6月	11	火	定例講話	上 原
7月	16	火	定例講話	上 原
	19	金	所長講話	當山所長
	22	月	七夕書道	知花課長
	25	木	プレゼンテーションの技法①	甲 斐
8月	13	火	定例講話	上 原
	26	月	プレゼンテーションの技法②	甲 斐
9月	25	水	所長講話	當山所長

【後期】

10月	1	火	所長講話	當山所長
	3	木	研修のしおり研究計画検討会に向けて	上 原
	8	火	教育心理検査の実施方法、活用の仕方	野原清志先生
	9	水	定例講話	上 原
	16	水	資料の検索について	甲 斐
	18	月	教育次長講話	玉寄次長
11月	7	木	定例講話	上 原
	12	火	情報機器の活用	甲 斐
12月	10	火	定例講話	上 原
	24	火	プレゼンテーションの技法①	甲 斐
1月	6	月	所長講話	當山所長
	7	火	書き初め	知花課長
	20	月	定例講話	上 原
2月	13	木	プレゼンテーションの技法②	甲 斐
3月	3	月	定例講話	上 原
	26	水	所長講話	當山所長

【所内研修の様子】



【七夕書道】

精神を集中して1文字1文字に魂を込めています。



【情報機器の活用】

スキャナの操作やEメールの使い方を実習しました。

2 所外研修

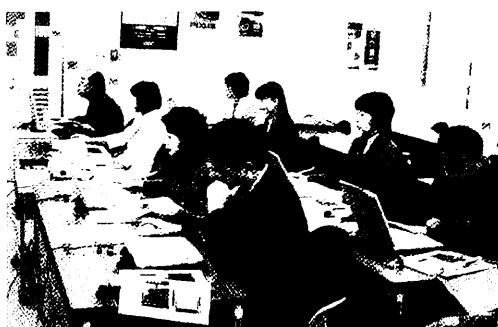
【前期】

回	期日		研修場所	研修内容	電話番号
1	4/18	木	OCC (コンピュータ研修)	ワード、表計算ソフトの実習	876-0777
2	5/16	木	環境学習 (野鳥観察)	沖縄の野鳥の現状理解と観察	874-5314
3	5/23	木	西崎養護学校 沖縄県立盲学校	特殊教育諸学校を見学し、特殊教育への理解を深める。	994-6855 889-5375
4	7/23	火	海水揚水発電所 マルチメディア館 104コールセンター他	県内の特色ある施設を見学することにより見聞を広め教育実践に役立てる。	0980-43-2801 0980-55-3333 870-4009
5	8/29	木	玉泉洞王国村 中央児童相談所	観光事業の現状と経営努力 児童相談所の視察研修	949-7430 886-2805
6	9/12	木	沖縄国際センター 少年院 女子学園	国際センターの事業内容の理解 少年院の視察視察 少女学園の視察研修	876-6000 933-4486 933-7241

【後期】

回	期日		研修場所	研修内容	連絡先
1	10/15	火	OCC (コンピュータ研修)	ワード、表計算ソフトの実習	876-0777
2	10/31	木	西崎養護学校 沖縄県立盲学校	特殊教育諸学校を見学し、特殊教育への理解を深める。	994-6855 889-5375
3	11/14	木	沖縄国際センター 沖縄県マルチメディアセンター	国際センターの事業内容の理解 県内のマルチメディア事業の理解	876-6000 833-9095
4	11/28	木	中央児童相談所 少年院 女子学園	児童相談所の視察研修 少年院の視察視察 少女学園の視察研修	886-2805 933-4486 933-7241
5	1/23	木	環境学習 (野鳥観察)	沖縄の野鳥の現状理解と観察	874-5314
6	2/20	火	海水揚水発電所 芭蕉布会館	県内の特色ある施設を見学し 聞を広め教育実践に役立てる。	0980-43-2801 0980-44-3033

【所外研修の様子】



【第1回：コンピュータ実技研修】

全員真剣な表情でエクセルとワードソフトの使い方を習得中。これからの研修に大いに役立ちます。



【第2回：野鳥観察】

糸満市小度海岸にて、海辺に飛来する野鳥の観察。水鳥の美しさと種類の多さに感動！

3 短期研修講座

①「幼稚園教育短期研修講座」

- (1) 目 的
幼児教育の理論及び事例、実技研修等の研修をととして幼稚園教諭の資質の向上を図り、保育実践に役立てる
- (2) 期 日 平成14年7月30日(火)～7月31日(水)
- (3) 会 場 南部総合福祉センターホール
- (4) 研修対象 島尻管内幼稚園教職員 93名
- (5) 日程及び研修内容

期日	時間	内容及び方法
7月30日 (火)	9:30～10:15	1 受 付
	10:15～10:30	2 開講式
	10:30～12:00	3 講 話 講師 名嘉萬里子 那覇市立天妃幼稚園前主任 「幼稚園教諭としての生活を振り返って」
	12:00～	※ 31日の食券(弁当)の販売(ロビー)
7月31日 (水)	10:00～10:30	1 受 付
	10:30～12:00	2 事例発表 講師 大湾由美子 読谷村立古堅幼稚園主任 講師 島袋 浩子 具志川市立川崎幼稚園教頭 「幼稚園の安全指導と管理」
	(12:00～13:30)	昼 食
	13:30～16:00	3 実技研修 講師 大西栄保 那覇市立与儀小学校元教頭 「園児の指導に生かせる 身近な物を利用したオモチャづくり」
	16:00～16:15	4 閉講式

(6) 備考

- ① 実技研修では牛乳パック(大3個、つぶさずに持参)、カッターナイフ、ハサミ、ホッチキス、セロハンテープ、油性マジックセットを使用しますのでご持参ください。

(7) 研修会の様子



牛乳パックを使ってオモチャづくりに挑戦!

平成14年度 幼稚園教育短期研修講座



幼稚園での安全指導と管理についての事例発表

②「幼・小・中学校情報教育利用講座」

(1) 目 的

コンピュータの機能を理解し、講義及び実習をととしてコンピュータ等の情報手段を活用する能力を高め、資質の向上を図る。

(2) 期 日 平成14年8月5日(月)～8月7日(水)

(3) 会 場 糸満市立光洋小学校(コンピュータ室)

(4) 対 象 幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭

(5) 申し込み (1) 8月5日の「コンピュータ基礎」「デジタルカメラの活用」「スキャナーの活用」については初心者
(2) 8月6日と8月7日の「インターネット」や「簡単なホームページの作成」「プレゼンテーションツールの活用」について技術の習得を希望する方は中級者(ある程度パソコンができる人)

(6) 定 員 40名(初心者20名、中級者20名)

(7) 講 師 賀数昌治 糸満市立光洋小学校教頭
屋良朝俊 座間味村立慶留間小学校教諭

(8) 日程及び研修内容

	期日	時間	内容及び方法
初心者講座	8月5日 (月)	9:00～9:30	1 受付
		9:30～12:00	2 講義「コンピュータ基礎」
		12:00～13:30	昼食(各自)
		13:30～17:00	3 実習「デジタルカメラの活用」 「スキャナーの活用」
中級者講座	8月6日 (火)	13:00～13:30	1 受付
		13:30～17:00	2 実習「インターネットの活用」 「簡単なホームページの作成」
中級者講座	8月7日 (水)	13:00～13:30	1 受付
		13:30～17:00	2 実習 「プレゼンテーションツールの活用」

(9) 備考

- ① 参加者は各講座について2～3枚ずつ3.5インチフロッピーディスクをご持参ください。また、初心者講座参加者はスキャナーで取り込む写真等をご持参ください

(10) 研修会の様子



ホームページビルダーを使って、自分だけのHPづくり(初級者)



あこがれ?のパワーポイントもバッチリ習得しました。(中級者)

4 幼稚園教頭・主任等宿泊研修会

1 趣 旨

- (1) 地方分権、教育改革の流れの中で、広域型の島尻教育研究所の研修活動の充実強化を図る。
- (2) 研修を深めることにより、幼稚園教頭・主任としての指導力、リーダーシップの向上に寄与する。
- (3) 島尻管内の公立幼稚園の教頭・主任等が新しい時代に応じた、幼児一人一人の可能性を引き出し、育て、伸ばす教師の実践的指導力を高める研修の推進を図る。
- (4) 教育の変革期における幼稚園教育の課題やニーズ等について掌握し、その具体策について討議を深める中で管内幼稚園の充実強化を図る。
- (5) 宿泊をともにすることで、各教頭・主任間の絆を深め、今後の各市町村の幼稚園教育のネットワークを構築し、島尻の幼稚園教育の充実発展に寄与する。

2 主 催 南部広域行政組合島尻教育研究所

3 後 援 県教育庁島尻教育事務所、島尻市町村教育長会
島尻地区公立幼稚園教頭会

4 期 日 平成14年10月23日（水）～24日（木）

5 場 所 梯梧荘（今帰仁村）

6 対 象 島尻管内の公立幼稚園教頭・主任等

7 研修内容

(1) 宿泊研修テーマ

「時代に対応した幼稚園教育に向けて－園内研修の充実－」

- ① 研究協議 題「教頭として、園内研修を活性化させるためにどのような方策が必要か」
- ② 情報交換「各幼稚園における子育て支援（預かり保育）の現状と課題について」

(2) 視察研修

- ① 名護市マルチメディア館
- ② 国際海洋環境情報センター

8 旅 費

- (1) 各公立幼稚園教頭、主任等の研修旅費については市町村教育委員会負担とする。
- (2) 各派遣指導主事の研修旅費については市町村教育委員会負担とする。

【昨年の研修会の様子】



グループに分かれて、事例発表と研究協議を行いました。



研修会の運営委員の打ち合わせ会のようす

Ⅵ 平成14年度前期研究員の実践事例紹介

1 幼稚園教育（与那原町立与那原東幼稚園 嘉手苺すみ江教諭）

本物の与那原大綱曳だ！

- 「つなひきたのしいな」の実践より -

(1) 研究の概要

地域の伝統行事である「与那原大綱曳」を教材化し、幼児が行事に関わるなかで、自己表現活動を楽しんだり、地域のよさに気づいたりできるように援助の在り方を工夫した。

(2) 指導上の工夫点

幼児一人一人の自己表現活動を促すために次のような援助の工夫を行った。

(ア) 幼児が地域行事教材に楽しく関わる援助の工夫

- ・ 地域人材の活用、絵本の読み聞かせ、綱曳資料館の見学など

(イ) その子なりの表現を引き出す環境構成の工夫

- ・ 旗頭、金鼓、衣装などの装具の準備、本物の衣装を付けた地域の方の応援など

(ウ) その子なりの表現を認めて生かす援助の工夫

- ・ やりたい役で表現を楽しませる、綱曳に勝ったときの表現を引き出す

(3) 指導の実際



綱曳資料館の見学では、本物の大綱をみて大きさにびっくり



旗頭も本物そっくりに自分たちで作ったよ！



本物の衣装を付けた、大綱曳実行委員の方も応援に来てくれたよ！



東と西に分かれて綱曳開始。みんなで力いっぱい綱を曳いたよ。

※詳細は平成14年度研究報告書第16号に掲載

2 小学校 総合的な学習（糸満市立西崎小学校 渡名喜留美子教諭）

Let's Try 英語活動！

-「英語で遊ぶ」の実践より-

(1) 研究の概要

総合的な学習の一環として、小学校中学年の英語活動の在り方を探る取り組み。
英語を使ったゲームや歌などの体験的な活動の中で、児童が英語によるコミュニケーションを楽しみながら身につけられるように計画・実践した。

(2) 指導上の工夫点

児童が楽しみながら英語活動ができるように次のような指導の工夫を行った。

- (7) 児童にとって身近なことばや英語の歌を選んだ学習材の作成
 - ・スポーツやくだもの、色や数字、振り付けが楽しめる英語の歌などの教材化
 - ・絵カードやフラッシュカードの作成
 - ・ALTの紹介ビデオや歌のCDの作成
- (1) ゲームやスキット(寸劇)を取り入れた体験的活動の工夫
 - ・ビンゴゲームやフルーツバスケットなど日本でもなじみのゲームの利用
 - ・歌やチャンツなどリズムカルに英語にふれる工夫
- (4) ALTとのT.Tの工夫
 - ・ネイティブスピーカーの活用
 - ・学級担任とALTとの役割分担の明確化

(3) 指導の実際



振り付けのある英語の歌で
ウォーミングアップ



ALTの先生と一緒に楽しくスピードタッチゲーム



学級担任とALTの役割分担も
大切です。



今回作成した学習材の一部
絵やカードで視覚に訴えます。

※詳細は平成14年度研究報告書第16号に掲載

3 中学校 数学（糸満市立西崎中学校 名嘉眞朝靖教諭）

一人一人に応じた学習意欲の高まりを！

- 「個に応じた少人数指導」の実践より -

(1) 研究の概要

生徒の実態を把握し、個に応じた指導計画、学習課題を作成することで、一人一人に応じた学習を保障し、基礎・基本の定着を図ると共に、応用・発展的学習にも対応できる学習指導の工夫

(2) 指導上の工夫点

正の数・負の数の概念をわかりやすく理解させるための指導法の工夫と生徒一人一人の実態に応じた各種プリントの作成を行った。

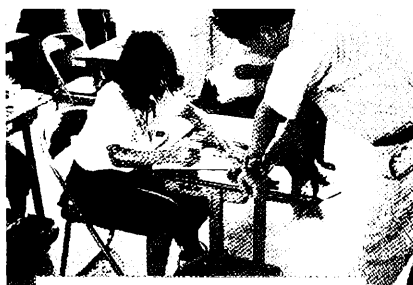
(7) 正の数・負の数の概念を理解させるための工夫

- ・気温や収入・収支などの身近な事象を利用した説明
- ・トランプやタイル、数直線などの具体物を利用した説明
- ・ $+3 \rightarrow +3$ や $-4 \rightarrow -4$ などの表記法の工夫

(4) 一人一人の実態を考慮した課題作成の工夫

- ・アンケート、確認テスト、学習タイプの分類などによる多面的な生徒の実態把握
- ・課題プリント、支援プリント、発展プリントなど個に応じたプリントの作成
- ・パズルやゲーム的な要素を取り入れた課題の作成

(3) 指導の実際



少人数指導では、個への支援も十分行えます。



課題プリントができたなら、解答プリントで自己採点



パズル形式の問題に夢中になって取り組む生徒



トランプのマークの色で(+)や(-)を判断しやすくしました。

※詳細は平成14年度研究報告書第16号に掲載

VII 適応指導教室「しののめ教室」から



「しののめ教室ってどんなところ？」

島尻教育研究所 適応指導教室「しののめ教室」

担当教諭 城 田 由 勝

「しののめ教室は、どこにあるの。」「しののめ教室には、どんな子が通ってくるの。」「しののめ教室では、どんなことをしているの。」

これは、今年度4月から「しののめ教室」の担当になって何度も尋ねられたことです。適応指導教室のことって意外と知られていないんだなというのが率直な感想です。私自身がそうであったように、適応指導教室「しののめ教室」があることは知っているが、どこにあるのか、どんな子が通っているのか、どんなことをしているのかは、ほとんど知られていないというのが実状のようです。本稿で、そのような質問に少しでもお答えできればと思います。

「しののめ教室」は、東風平町の南部総合福祉センター構内にあります。本館の裏にあるプレハブが「しののめ教室」です。

平成8年に開設され、今年で7年目を迎えます。通級児童生徒はのべ68名（平成14年8月現在）になっています。通室児童生徒の入室条件は次の通りです。

1. 学校に行こうとの意思はあるが行けない。
2. 登校時になると、頭痛、腹痛、発熱、気分不良などの心身不調を訴える。
3. 学校を休んでいるときは、家に「引きこもる」傾向がある。
4. 対人的な接触を避ける傾向がある。
5. 登校を促すと、すくみ反応が顕著にあらわれる。
6. 孤立的で神経質的傾向が強い。
7. 明らかに精神的疾患ではない。
8. 本人に「しののめ教室」に通級する意思がある。
9. 保護者が「しののめ教室」への送迎が十分に可能である。

つまり、心因性の不登校児童生徒が通級するということになります。各学校・各教育委員会で「しののめ教室」への通級を検討される場合は、上記の条件をよく考慮していただきたいと思います。

「しののめ教室」では、通級児童生徒の原籍校と連携をとりながら、自然体験、スポーツ活動、製作活動、芸術・文化活動、勤労・ボランティア活動等の体験的活動、個々の実態に応じた学習指導、それぞれの不安を解消するための教育相談活動を行っています。諸活動を通し、児童生徒の自立心を高め、社会性を身につけさせ、学校生活への適応を図り、学校復帰を支援していきます。

枕草子の巻頭に出てくる「雲」と東風平の「東」をかけて「しののめ（東雲）」と命名された教室、「みるみる東の空は白んで明け方を迎える。彼らの心の内がだんだんと開けて、明るい希望と勇気が出てきて学校が楽しくなり、生きるエネルギーがわいてくる。」そんな願いが教室名に込められています。その名の通り、島尻教育事務所管内の心因性不登校児童生徒の心の居場所の一つとして選択肢の中に加えていただければ幸いです。

VIII 研修を終えて



緊張の中の学び

－「大切な話」「3分間スピーチ」－

与那原町立与那原東幼稚園教諭 嘉手苺 すみ江

4月からの研究所入所は、緊張の中でのスタートでした。最初は、何をどのように進めていけばよいのかわからず、パソコンも初めてで「私にできるのだろうか」と不安の毎日だったのを覚えています。教育法規講話・パソコン講習会・パワーポイントの使い方・学級経営の講話等は、今後の幼稚園教育に求められる多くの示唆があり、現場に戻ってからの活用に胸を躍らせています。先人達が、人間を成長させると論じた「字をかく（論文作成で）・恥をかく（スピーチで）・汗をかく（トータルで）」を、6カ月で一気に体験することとなり、人生最良の経験となりました。

「大切な話」と「3分間スピーチ」では、日頃の自分の考えや思いを簡潔明瞭に話すことが求められました。人前で話すことが苦手な私にとっては、高いハードルでした。事前に話す内容を考えてはいるものの、いざ自分の考えを述べるとなると緊張が先になり、何を話していいのか分からなくなり、終わってから反省する日が続きました。回を重ねるうちに、ほどよい緊張感を味わいながら、与えられた時間の中で自分の意見をしっかりと伝えることができるようになりました。その意味から、私にとって、話す技術を高める良い機会になりました。

「大切な話」とは、毎週水曜日の朝のミーティングが終わった後に、外山滋比古著『学校で出来ること出来ないこと』の小冊子をテキストとして、研究員相互が意見の交換をする場であります。教育的論議のある93項目のエッセイの中から題材となるテーマを研究員が選定し、それに対する自分の意見を述べ、最後に両指導主事と所長がまとめるといった形式で行われました。小冊子のどの内容も短い文章の中にすばらしい教育活動のヒントが凝縮され、親の立場、教師の立場に立って考えさせられることが多く、学校現場では得られない貴重な体験ができ、大変勉強になりました。

また、毎週金曜日には、担当になった研究員がテーマを決め3分間にまとめて話す「3分間スピーチ」がありました。「清明祭」・「イチャリバチャデー」・「母について」等、家庭や幼稚園、学校で経験した多くの話題の中からテーマを選び、各研究員が意見を述べる場である。心をオープンにして語り合うことで、より研究員同士が親密になり、仲間意識を醸成することができました。締めくくりは、両指導主事と所長による幅広い視野や教育経験豊かな体験から、示唆のある話で結論に導かれ、毎回感動しました。特に、所長の「語り部」のごとく話をされるまとめの言葉は、私達の心の糧になるお話で聞いてためになる「チチグスイ」「ミミ学問」「話はん学」を実感いたしました。

最後に、研修を熱心に勧めて下さった、与那原東幼稚園の安里智枝子園長をはじめ、名嘉峯子教頭、園職員、与那原町教育委員会の方々に心より感謝を申し上げます。また、研究所の當山徳有所長・上原幸得主任指導主事・甲斐英児指導主事には、温かく見守ってご指導をくださりありがとうございました。更に、研究の進め方等にあって懇切丁寧に指導し、励ましてくださった指導講師の又吉ノリ子先生（真壁幼稚園教頭）に心より感謝を申し上げます。最後になりましたが、楽しい時も苦しい時も共に過ごした第16期の研究員の皆さんありがとうございました。



獅子の会パワーアップの旅

— 県外研修から —

大里村立大里南幼稚園教頭 大 城 美恵子

4月2日、不安と緊張のなか入所式を終え、翌日には県外研修の話し合いが持たれました。これから半年間、研究を共にしていく仲間である7人の研究員は、まだ緊張で肩に力が入り、遠慮がちで計画もなかなか前に進みませんでした。しかし、県外研修で視野を広げ、親睦を深めようとプランを練るうちに、新緑の箱根へと思いは馳せていきました。話し合いを進める中で16期生（獅子の会）は、研究員のパワーアップを願って新緑の箱根・伊豆半島と鎌倉3日間の旅と決定しました。

4月30日（火）羽田→小田原→箱根峠→伊豆長岡温泉

那覇空港へ7時30分集合、早朝にもかかわらず當山徳有所長と上原幸得主任指導主事の心温まる見送りがありました。お二人に見送られ「獅子の会パワーアップの旅」は甲斐英児指導主事を団長に出発することができました。東京に着くと車中からの景色はまさに別世界でした。新緑で山々はやわらかい緑に包まれ、命の息吹を感じ、なぜかやさしい気持ちになりました。人間は自然との共生が大切だと感じつつ箱根峠へと向かいました。そこは濃霧で視界ゼロ？霧の中に吸い込まれ、強風にあおられ、寒さと恐怖の中、往時の人々の“箱根越え”の苦勞を偲ぶ事ができました。まさに♪箱根の山は天下の剣♪であります。これからの研究が安全で有意義な“箱根越え”になるようにと研究員一同は祈りました。

5月1日（水）富士山→白糸の滝→柿田川

憧れの富士山を見たい私達の願いに答えるために、運転手は八方手を尽くしてくれました。雄大な富士山を頭に描きつつワクワクする一行にまたもや霧が現れました。5合目まで行きましたが頂上は見えませんでした。もしや私達の今後の研究を暗示しているのでは？と嫌な予感が頭をかすめました。いつでもプラス思考の研究員は雪が見れたこと、3・4合目から見た下界の美しさ、雲の上の仙人になった気持等を経験することで、嫌な予感もふきとびました。その後、富士山の雪解けの伏流水が岩清水となって噴出し、白い絹糸のように細く流れ落ちる「白糸の滝」の美しさと、富士山周辺で降った雨水や雪解け水が地面にしみ込み、地下水となって湧き出た東洋一の湧水「柿田川」に一同は感動しました。人々に自然の恵みを与えている富士山はやはり日本一の名山でした。

5月2日（木）鎌倉→大仏→横浜中華街

研修最後の日は、源氏、北条氏ゆかりの地鎌倉を訪ねました。国宝である鎌倉大仏は親しみやすく、優しいような顔、靈驗あらたかなお姿に一同は「研究が無事に進みますように」と祈願しました。昼食は大都市横浜が誇る中華街の「重慶飯店」で豪華な四川料理に大満足し、思い残すことなく、沖縄への帰途に就く事ができました。

二泊三日の有意義な県外研修でパワーアップが図られ、お互いの距離がぐっと縮まると共に絆も深まりました。この経験が、今後の半年間お互いに支え合い、励ましあって研究を進める原動力になったことは言うまでもありません。

最後に、研究の機会を与えてくださった大里村教育委員会、金城盛一園長に感謝し、更に當山所長、上原・甲斐両指導主事、担当の上原須美子先生に深く感謝とお礼を申し上げます。島尻研究所で学んだことを今後の実践活動に生かしていきたいと思います。



乗り越えて もうひとつ 乗り越えて・・・

— 検 証 授 業 —

糸満市立米須小学校教諭 砂 川 充

「検証授業は仮説を検証することが大切である。公開授業ではない。」當山所長のお言葉を思い出し、授業が近づくにつれて、「見せる授業をしようとしているのではないか?」「テーマは何か。仮説は何か。子どものどのような変容を望んでいるのか。」自問自答を繰り返しました。「イメージしている授業の様子と、当日の子どもの様子が違ったらどうしよう。」眠れぬ日々も続きました。「今までの研究員みんなが乗り越えてきた道だ、私にだってできないはずはない。」そんな思いで検証授業を乗り切りました。授業を終えても反省はつきません。

4月より入所してきた7人にとって最大の悩みは子どもの実態がつかめないことでした。また、その事は検証授業における大きな課題でもありました。教育研究において、仮説の検証の際に一人一人の児童・生徒の実態をより正確にしかも、多くの観点から把握する必要があります。GWを終えた頃から「この人誰ね」という目で見られながら、学校へと足を運び、子どもたちと仲良くなろうとコミュニケーションを図り、アンケートや各種調査で、一人一人のより詳しい実態把握に努めました。検証授業前には連日学校へ行き、授業へ向けて試行錯誤の日々が続きました。子どもの実態を様々な観点から把握したことが、その後の仮説の検証や考察に大いに役立ちました。

一人でイメージして作り上げた指導案は、當山所長をはじめ、両指導主事、指導講師、研究員との指導案検討会での助言を受けたおかげで内容が充実し、迷いはありませんでした。検証授業当日は緊張感はあるものの、「自分が見られているのではない。仮説の検証をしているのだ。」という気持が強く、落ち着いて授業に臨むことができました。また、毎回研究員同士で「学級全体の様子」「抽出児の観察」「教師の活動（発問・行動）」「ビデオ」という視点を分担し、授業を観察するので、授業を見る目が鍛えられました。第三者として子どもを見る事で、その子のつぶやき、表情までを細かく観察し記録することもできました。教師の支援・援助に対し、子どもが様々な反応をしていることが分かり、教師の発問の仕方、個への支援がいかに大切であるかを知ることができました。

検証授業を終えて、反省会を持ちました。それぞれの視点から活発な質疑、感想、意見が述べられ、その中で自分では気づかなかった問題点に気づき、改善すべき点が分かりました。これらは今後の課題として発展的に考えることができます。

「今、自分がやっていることは有効なのか。これでいいのか。もっと他に良い方法があるのではないか。」常に悩み、苦しんだ日々も終えようとしています。研究室の壁には「乗り越えて もうひとつ 乗り越えていけたら 心が きっと 強くなる」という詩があります。「やった～、頂上だ」と思ったら、そこにはさらに高い山が立ちはだかっていたことが、この研修では幾度もありました。それでも「一歩 あと 一歩 前へ 進め」と歩み続けました。そんな私たち研究員を支え、指導・助言を下さった當山徳有所長、上原幸得主任指導主事、甲斐英児指導主事、指導講師の先生方また、このような研修の機会を与えて下さった関係各位の皆様方に深く感謝申し上げます。研修の成果が生かせるように、今後も研鑽を深めていきたいと思っています。



心に残る講話の数々

－所内研修から学んだこと－

東風平町立東風平小学校教諭

金城 博 美

不安と期待の中で迎えた入所初日。教師としての自分を少しでも高めようと誓った決意を胸に秘めての研修生活のスタートでした。幸い、温かい人柄の仲間たちに恵まれ、まるで昔からの知り合いのように仲良くなり、お互いに励ましあいながら、有意義な日々を過ごすことができました。しかし、6ヶ月の研修期間は瞬く間に過ぎ去ってしまいました。この間、各々のテーマに沿った研究・実践はもちろん、それ以外にも多くのことを学ぶ機会に恵まれました。

當山徳有所長には、「教育改革とこれからの教育」と題して、生きる力・心の教育・自然体験や社会体験等の重視と特別活動の意義について講話をしていただきました。また、「教育者の道」として8つのことを話され、教師として身の引き締まる思いがいたしました。「子どもの成長と家庭の役割」では、可能性をもった子どもの発達についてや親の役割など、教師としてだけでなく一人の親としても参考となる貴重なお話を数多く聞かせていただきました。

上原幸得主任指導主事には、主に、教育法規と研究の方法について講話をしていただきました。教育法規のポイントを講話していただく中で教師としての立場を再確認することができました。研究の方法では、研究の進め方、検証の方法、論文の書き方などについて指導していただきました。また、毎週のクラブでは、三線の指導もしていただき、研究で疲れた心と体を三線の音色で癒し、新たな元気をとり戻すことができました。

甲斐英児指導主事には、研究資料の収集の仕方から始まって、パソコンを使つての図書資料の検索の仕方、Eメール、デジカメ、スキャナーの使い方やパワーポイントによるプレゼンテーション資料の作成など研究全般にわたって指導していただきました。

その他に、応用教育研究所の野原清志先生の経験に裏打ちされた教育心理検査についての講話や玉寄長市次長の「南部広域行政組合について」と題した行政に携わる立場としての情熱あふれる貴重なお話を聞く機会も得られました。

また、指導講師の荷川取幸代先生（糸満南小学校教頭）による豊富な資料・教具を提示されながらの「学級活動を活発にする学級経営」の講話や「しのめ教室」の城田由勝先生の「学級における予防・開発的カウンセリングの工夫」と題しての実践講座も聞くことができ、どちらも学級ですぐ実践したくなるような内容でした。七夕書道では、知花賢正総務課長にお手本を書いてもらう事から筆の運び方までを丁寧に指導していただきました。一日がかりでしたが、終始なごやかな雰囲気楽しく取り組むことができました。

研究所での研修では、これまでの自分を振り返り、多くの課題と出会う機会があり、現場では体験できないことを日々研修することができました。この体験を生かして現場での実践に励みたいと思います。

最後になりましたが、これまで、私たち研究員を支えてくださった南部広域行政組合の皆様、當山所長、上原、甲斐両指導主事、指導講師の荷川取幸代先生、さらに快く研修に送り出してくださった東風平小学校の中村清堅校長と諸先生方に心より感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。



いくつもの山を乗り越えてきた研修生活

周りの方々の励ましと温かさに支えられた研究所の日々

糸満市立西崎小学校教諭 渡名喜 留美子

「おはようございます！」—— 8時15分、研究所の一日の始まりです。

早めに出勤した仲間の心遣いの、芳ばしいコーヒーの香りに迎えられ、あいさつを交わし合い、みんなの笑顔に「今日も一日、がんばろう！」と励まされます。

朝の清掃活動

朝は、全員で、窓あけや湯茶の準備、清掃から始まります。清掃は、駐車場、研究室などを分担して行います。現場では、職場の清掃や湯茶の準備を自分でやるのが少ないので、改めて、周りの人に支えられていることを痛感しました。

ミーティング

8時30分から、ミーティングです。情報交換や諸連絡の他に、毎週水曜日は「大切な話」、金曜日は「3分間スピーチ」があります。その中で、日々の生活や健康、子育てのエピソードなど身近なことを始め、政治・経済・歴史など、さまざまなジャンルの話題や、色々な意見が聞け、視野が広がりました。また、上原幸得主任指導主事、甲斐英児指導主事からの現代教育の課題、最新の情報についてのお話は、現場ではなかなか学ぶことのできないものも多く、示唆に富んだものでした。そして、ミーティングをまとめる當山徳有所長の、豊かな人生経験と教育実践に裏打ちされたお話は、教職に対する心構え、人生観、子育ての在り方など、自分を見つめ直す上で、大きな糧となりました。

自主研究

その後、自主研究の時間です。レポート提出や、授業実践など次々とやってくる大きな山に向けて、何冊もの本を前に学んだ日。ただひたすら腕組みをし、構想を練った日。はたまた、パソコンとにらめっこで、レポートを作成した日。苦しいときは、研究員同士、声を掛け合い、時には、レポートを交換し合っ、意見を求め、励まし合いました。そんな悩める私たちの、どんな小さな疑問や迷いにも、上原、甲斐両指導主事は、的確、丁寧、且つ、温かい指導助言で応えて下さり、導いてくださいました。また、指導講師の竹本祐子先生（兼城小学校校長）は、研究全体の構成から、言葉や文の1つ1つまで、きめ細かくご検討頂き、お忙しい校務の中、研究を支えて下さいました。こうして、つたない報告書が、段々と練り上げられて、遂に最終報告書が完成したときの喜びは、何とも言えないものでした。

研修を修了するにあたって

このように、研究所では、多くの方々に支えられていることを実感する日々でした。さらに、甲斐主事には、図書資料の検索や、Eメールの活用、効果的なプレゼンテーションなどパソコン技能の向上についても大変お世話になりました。また、沖縄の文化・芸能をこよなく愛する上原指導主事からは、三線の手ほどきを受けたこと、さらに研究の構成、論文の書き方など研究に関わる事はもとより、お世話になった方々へお礼状を送ることなど、周りの方々への気配りについても教えていただきました。さらに、當山所長の人生の教訓、教員としてのあるべき姿についてのご講話は、私たち後輩への力強いエールとして心に響き、これからの教職生活に希望を与えてくださいました。こうした学校現場では味わえない“人間としての修養”も数多く体験させていただきました。また、幼・小・中と校種は違っても、研究員同士の励ましは、心の支えとなり、「三人行えば、必ず我が師あり」の言葉通りだと思いました。このような充実した研修の機会を与えて下さった、関係機関各位、さらに、学校長、教頭、諸先生方に心より感謝申し上げますと共に、今後の教育実践に生かし、研鑽を積んでいきたいと思ひます。



充実した実り多き研修

－ 所外研修を通して －

糸満市立西崎中学校教諭 名嘉眞 朝 靖

私にとって「所外研修」は、この研究所での大きな楽しみの一つでした。研究所を離れて行うこの研修で、普段の学校現場では体験できない多くのことを学ぶことができ、いろいろな見聞を広めることができました。

その中で印象に残っている4つの研修についての雑感を述べたいと思います。

コンピュータ研修（OCC本社）

最初の所外研はコンピュータについてでした。本研究所ではパソコンは必需品で、これを使いこなせないとどうにもなりません。慣れている研究員、まだまだ初心者の研究員それぞれが、「ワード」「エクセル」について学びました。ここで学んだことがその後の研究に大いに役立ったことは言うまでもありません。

野外観察（真境名丘陵・大度海岸）

「沖縄島南部の森林と海岸の自然観察」をテーマに、身近な南部の自然に触れることができました。特に鳥類については、普段意識して見ることはありませんでしたが、貴重な種類が身の回りに生息していることを知り感激しました。案内された糸数さんが女優の「萬田久子」に似た美人であったことも印象に残っています。

学校訪問（西崎養護学校・沖縄盲学校）

障害を持った子ども達と接することは多くない私達ですが、両学校の先生方の子ども一人一人に対する気持ちや姿勢には心打たれるものがありました。子ども達の生き生きとした姿が印象に残っています。通っている教え子にも会うことができました。

施設見学（沖縄海水揚水実証試験場・マルチメディア館他）

遠く国頭・名護まで研修に行きました。海水揚水施設では世界初の実証試験場がこの沖縄にあることに驚き、マルチメディア館では最先端の器機の素晴らしさに感心しました。海洋科学センターで見た、水圧でつぶれたカップ麺容器が面白かったです。

この所外研修で、沖縄県内の特色ある施設を視察する事ができました。企画運営や遠くまで車を運転なされた甲斐主事、貴重な体験をさせて頂き有り難うございました。

最後になりますが、當山徳有所長はじめ、上原幸徳主任指導主事、甲斐英児指導主事にはこれまでの研修に対するご指導や、教師の姿勢について多くのご指導を頂きました。また、指導講師として専門の立場から指導して頂いた具志頭村教育委員会の徳門正芳指導主事、快く研修に送って頂きました西崎中学校の前城清校長、研究の機会を与えて頂いた関係者の方々に心から感謝申し上げます。教師としての姿勢や考え方について、研究や読書、思考する時間が十分とれ、自分自身の見方、考え方の変化が、この研究所での一番の財産になったような気がします。本研究を通して得た成果を今後の授業実践に生かし、今後も研鑽を積み重ねていきたいと思います。



乗 り 越 え て

—入所式、計画・中間・報告書検討会—

糸満市立光洋小学校教諭 前 新 マチ子

入所式（4月2日）

真っ赤なデイゴの花がほころぶ春・4月不安と期待の中で研修生活がスタートしました。金城政安教育長をはじめ多くの関係各位の方々の出席のもと厳粛な中で執り行われた入所式では、とても緊張していたのを今でも覚えています。私達研究員7名は番号順に整列し、逍遙歌に合わせて進行し席に着きました。

「ピカピカの1年生になった気分で胸がドキドキした。」というのが、全員の入所式当日の気持ちでした。『三人行えば必ず我が師有り』という當山徳有所長のお言葉から、これまでの教師生活を振り返り、仲間と共に学び合う中で教師としての力量を高め、6ヶ月間の研修を有意義なものにしたいという気持ちを新たにしました。

『乗り越えて もう一つ乗り越えていけたら 心がきっと強くなる』という15期生からの言葉もこれからの研究所生活を送る中でとても励みになりました。

研究計画検討会（4月22日）

一番苦しかった最初の『山』がやってきました。研究計画検討会へ向けて上原幸得主任指導主事から研究レジュメのまとめ方について、また、甲斐英児指導主事からは資料検索の仕方について講義をしてもらい、テーマ、テーマ設定の理由、研究仮説、研究内容を考えまとめていきました。しかし、そこは個人研究の厳しさで辛い日々が続きました。資料や本を読み、何度も書き直し指導主事や指導講師に指導を仰ぎ、また研究員同士でレポートを交換して読み合ったり、自分達なりに意見を述べ合ったりと、できるだけ研究が有意義に進められるように手直しし、まとめて検討会に臨みました。

検討会では、たくさんの課題を抱えることになりましたが、適切な指導助言を受けたことで研究に対する方向性が見えてきて、一歩前進できたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

中間検討会（7月15日）

第2の『山』である検証授業が終わり、3番目の『山』である中間検討会を迎えました。中間検討会は、これまでの研究の成果をまとめ発表することで、自分自身の研究の方向性の意義を再確認し、今後の研究と最後のまとめに役立てるものでした。その中で所長や両指導主事の指導を受けた事により、研究仮説、研究内容、授業実践の整合性の大切さを改めて感じる事ができました。

研究報告書検討会（8月12日）

中間検討会での反省を生かし、研究テーマから始まり、研究内容、授業の実際、考察、研究の成果・今後の課題を10ページにまとめて報告しました。そこまで来るのに研究員同士がパソコンの操作をお互いに教え合ったり、原稿を見せ合ったり、切磋琢磨しながら取り組みとても充実した期間でした。

一つ一つの山を乗り越えてきましたが、最後の『山』である研究報告書検討会でも、やはり課題は残りました。両指導主事からは一字一句細かい点まで丁寧な指導があり、所長の総評を得て、さらに指導講師の指導助言を受け、報告書を完成し入稿することができました。

これまでのいくつかの『山』を乗り越え、研究を進めてこれたのも、いつも私達を温かく見守り支えて下さった當山所長、適切な指導助言をくださった上原主任指導主事、甲斐指導主事、それから何といても上原弘子先生には、研究全体について専門的な立場から詳しく、丁寧にご指導を賜りました。おかげで研究報告書を仕上げる事ができました。深く感謝を申し上げます。また、すばらしい研究の機会を与えて下さった砂川忠雄校長をはじめ、関係諸機関の皆様にも心より感謝とお礼を申し上げます。

島尻教育研究所逍遙歌



むくえのながれ ゆるやかに
あさひにはゆるき びーのはーら
おしえのみちをきわめんと つど
いしわれ ら いき たかーし

島尻教育研究所逍遙歌

作詞 宮城恒彦
作曲 親泊明美

一 報得の流にゆるやかに
朝陽に映ゆるまびの原
指導の道を究めんと
集いしわれら意気高し

二 辿る道程 厳しけど
友の情に 涙と
明日に灯 ともさんと
語る仲間の 声やさし

三 遙かに望む 八重瀬岳
うつろふ雲は 綾なして
ぬぐうへ急ぐ 群れ鳥に
光ほのかな 宵の星

一九九六年五月十三日